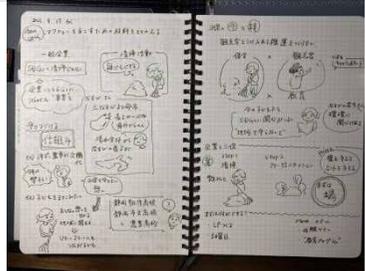


スリーリングSPJ (1000年先を1000人のチカラで・・・)

「なすびグループ」 × 「みほしるべ」 × 「(株)otono」

<h3>1.取組概要</h3>	<p>三保松原における定期的な松葉かきと、枯れ松葉を利用した商品を開発及び売り上げの一部をみほしるべに寄付という循環型、持続可能な活動の実施しています。</p> <p>今後は他企業及び学生を巻き込んで活動の拡大化、持続化を目指して活動中です。そして、1000年先に同じ景色を残すために毎回1000人での持続可能な松原保全活動を行います。</p> <p>* 該当項目は11、12、14、15。今後は17も追加していく予定。</p>	
<h3>2.該当するSDGs目標</h3>		<h3>3.取組イメージ</h3>
 <p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	<p>2020年2月に全社員約300名（パート、アルバイトを含む）で松原保全活動を実施し、静岡市文化財課へ売上の一部（約20万円）を環境保全費として寄付しました。更に定期的に松葉かきを行うことで世界文化遺産の保護・保全を強化し、持続可能な活動にしています。</p>	<p>三保松原保全活動日を告知 →定期的な松葉かき →枯れ松葉を持ち帰り、利用 →三保松原焼きを提供 →売上の一部を静岡市文化財課へ寄付 →松原の保全を強化</p>   
 <p>12 つくる責任 つかう責任</p>	<p>回収した枯れ松葉の利用によって、天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用が達成できます。更に、三保松原焼きの開発により、文化振興、産品販促につながります。また枯れ松葉の利用は廃棄物削減にも効果的です。</p>	<h3>4.ポイント</h3>
 <p>15 陸の豊かさも守ろう</p>	<p>広大な松林を維持する為に活動の拡大化を目指します。その結果、地域の方々の意識変化や活動自体への自発的な参加の増加など地域活性の推進力になると共に、松原保全を実現化します。</p>	<p>松葉かきするだけでなく、回収した枯れ松葉を利用し、三保松原焼きの発信と合わせ広報活動も行うことで、将来的にまちの経済を活性化し、好循環型のまち静岡を生み出し、住み続けられるまちづくりを実現していくことです。</p>

5.取組が開始されたきっかけと展開

2013年地元の新聞社が三保の世界遺産登録をきっかけに始めた三保松原の松葉かきが2018年を最後に終了するという話を聞き、どこかの企業がバトンを受け取らなければ、活動が本当に終わってしまうと考え、弊社が受け継ぐことにしました。当時、みほしるべの初代所長が私の高校（清水南高校の先輩ということもあり、三保に地区に掛ける思いが共通していたこともあり、松葉かきにおける協力体制確立の段取りは非常にスムーズに進みました。しかし、経済活動なきただの松葉かきだけでは企業として継続が難しいであろうと考え、落ち松葉を使った商品を開発して、それを販売することになりました。しかし、残留農薬の問題や、落ち松葉の利用許可の問題など簡単には進まず、静岡農業高校さまや市役所にもご尽力いただき、やっと落ち松葉を使った「三保松原焼き」という商品が誕生しました。

6.応募した取組の今後の計画・展開

今はまだこの活動における協力企業が数社ですが、今後は県内の各企業と共に、松葉かき及び商品開発を進め、全国にこの活動と商品を発信することで、三保松原の保全活動を巨大化させていきたいと考えております。また、企業だけでなく、学生ボランティアも作り、企業と学生でマッチング事業も展開していきたいと考えております。今の学生は環境問題や地域問題に興味が深いと言われております。そこで、この活動を通じて、企業側の考える環境問題、学生が考える環境問題、そしてそこから生まれる企業の環境への取組のスタート地点になる活動になればと考えております。また今後、この活動がHUBになり、多くに企業や学校、学生、地域が三保に目を向けて、ひいては松葉かきの枠を超えて地域ブランドの確立と学生企業のマッチングの場になることが将来の狙いでもあります。

7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント

非常にシンプルです。

- ① 毎週土曜日と決めて定期的に松葉かき
- ② SDG's についてのディスカッション
- ③ その松を使って商品開発
- ④ その売り上げの一部をみほしるべに寄付

しかし、これらの活動が企業の好き勝手ばらばらにやっても最高の効果が生み出せないと思いますので、組織化して、仕組みをしっかりと作って、他企業とも連携をして大きな活動にしていく事が望ましいと考えます。コロナ禍で人が集まる事が難しい中、この活動は屋外で多くの人と触れ合うことができる素晴らしい効果も生み出せます。

また、短時間で誰でも参加できる手軽さから地域の方々や他企業の参加によってより多くの方を巻き込んでの活動が実現できます。

また個人、企業の意識変化によって更に拡大していき、将来、当たり前前の活動として認識され、持続可能な活動に繋がります。

また構成事業所名と1000年1000人に「0」が3つという点と三保の三を取ってスリーリングSPJとしました。

